

令和4年度 桜川市地域創生評価委員会

日 時 令和4年9月7日(水) 14時00分

場 所 大和庁舎 3階 大会議室

次 第

1. 開会

2. 議事

(1)タイムスケジュール及び評価方法について

(2)桜川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価及び検証について

(3)その他

3. 閉会

(2) 桜川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価及び検証について

【石のまち支援事業】

- KPIの中に記載されている2019年度の商談件数の実績が250件とあるが、どのようなイベントを開催して、このような大きな数字になったのか。

→いばらきストーンフェスティバル、まほろば石まつりなどを開催していた。

- 今年度はいばらきストーンフェスティバルなど、そういったイベントの開催の予定はあるか。

→これから計画される予定。通常であれば6月にまほろば石まつりが予定されていたが、コロナ関係で延期になっている。11月に開催予定のストーンフェスティバルについては、準備を進めていると聞いている。

- KPIの指標である「石材関係イベントによる商談件数」について、250件(2019年度)から300件(2024年度)とあるが、計画が実態よりも高かった認識はあるか。計画の見直しは考えているか。

→石材関係の方がコロナの関係で外に行けない状況なので、コロナ禍で商談が難しいと思う。イベントや活動ができるようになれば、数値を持ち直せるのではないかと期待している。

- この事業は、石材関連企業の方が取り組んでいる事業を支援するかたちになっているが、支援の中身について具体的に伺いたい。例えば、新商品開発や公共事業への地元製品の活用、伝統技術の保存・後継者育成について。

→桜川市として行っている支援としては補助事業。市内の真壁石材協同組合と羽黒石材協同組合の2つの石材組合があり、この2つの石材組合にPRや販路拡大のため、年間130万円を補助金として支援している。新商品開発については、実際に真壁石材協同組合でデザイナーを入れて、新しく石で作ったライトなどがある。値段が高いところもあるので、今のところ新製品の開発については止まってしまっている状況ではあるが、石材組合で検討しているところ。後継者育成に関しては、真壁の石燈籠が茨城県の伝統工芸品になっており、現在、伝統工芸士が17名。真壁石材協同組合で真壁石燈籠振興計画というものを策定しており、令和3年から令和7年度の計画となっている。その中で後継者育成に取り組んでおり、今年度は伝統技術を継承するために、映像化して後世に伝えていくということをやられている。

- 新商品開発や後継者育成についても、市から補助金は出ているのか。

→補助金を使いながら、真壁の石燈籠に関しては、振興計画に基づいて別枠で補助金を出している。

- 東京駅の周辺の高層ビルなど、売り込んでいけるのではないかと期待している。

→価格の部分がネックになっている。公共事業に使用するとき、外材がどこまで価格に対抗してくるかが今後の課題になってくると思う。

- 東京駅のようなシンボリックがあるところに市としては売り込みをしているのか。そういった戦略はあるか。

→戦略は今のところない。東京の展示会には参加しているが、シンボリックがあるところについては、これから石材組合の方にお声かけさせていただきたい。

- 雨引の里のことで、屋外で石を使った作品を作られる方がいると思うが、地元の石を使った作品なのか。

→地元の石を使っているかどうかまでは把握できていない。

- 後継者の育成について、後継者の方はどのあたりから来ているのか。日本の伝統工芸品については、海外の方からの関心も高いと思うので、例えば外国の方を軸として育てるといった思い切ったことを検討されたりはしているか。

→先ほど、伝統工芸士が 17 名ということでお伝えしたが、実際のところ 3 名減っている。外国の方を軸にといた考えがなかったので、会議の場で提案いただいたことをお話ししようと思う。

- 国への要望の中で、伝統的なものを使う時に、補助金がもらえるように要望してみてもいいか。

【市内農産物を活用した加工品創出事業】

- KPI になっている新規加工品の開発件数が 6 件となっているが、5 年間で 6 件ということか。各年度 6 件か。→5 年間で 6 件。

- 規加工品の開発件数については、市がどのように関与しているのか。

→民間事業者が考えた商品、パッケージなどについて市に申請すると補助が受けられる事業がある。

補助事業に採択した件数を、新規加工品の開発件数としてカウントしている。

- その補助はどのようなものなのか。

→新しい商品を開発したり、既存の商品の販路を拡大するための補助。経費の 2/3 以内で上限は 50 万円まで。

- KPI の 2 つ目「農産物の生産者と加工業者のマッチング数」の実績値が振るわないが、マッチングが進まない理由についてどう考えているか。2021 年度にさくら川百貨のブラッシュアップとあるが、具体的にはどんなことをしているのか教えていただきたい。

→農産物生産農家の方の話を直接聞ける機会があまりないこと、生産農家の方もどのようにやっていく

か分からないような状況があると思う。現在、地域商社があるので、生産農家の方が直接販売できる売り場があるので、これからそういった場を活用し、加工品なども支援していければと考えている。

さくら川百貨の事業につきましては、さくら川百貨に認定されている商品について講師を呼んでより良いものにしようとする事業で、商工観光課と連携して補助事業で支援するもの。

- 地域商社が設立する前に、参加したい生産者の方や地域の商工業者の方に説明会を行ったり、募集を行っていたような気がするが、それが事業概要の中にある農産物の洗い出しなのか。

→それとは別のものとなっている。当時行っていたのは、農作物がいつ、どこで、どのくらい作られているのか、という情報を集めるような意味合いのもの。

- 販路については、地域商社のような特産品を強調して販売する場ができたと思うが、それだけでは販路として小さいと思うので、販路拡大について市としての方策はあるか。

→販路拡大として、スーパーマーケット・トレードショーがある。毎年、千葉の幕張メッセでスーパーマーケットの大規模な展示会がある。市が認定している「さくら川百貨」の認定事業者の方にお声かけをし、販路拡大の足掛かりの場、商談会の場を設けるようなことはやっている。

【子育て情報発信事業（ICT×子育て＝子育てしやすい環境整備）】

- この事業は、母子手帳を電子化して普及していこうとしている事業か。

→はい。

- そうすると、紙の母子手帳の情報などは全て「さくらっこ」のアプリに代替されるということでしょうか。

→今のところ、マイナポータルが連携していない部分があるので、ご自身で入力していただくかたちになっている。例えば、大きくなったお子さんをお持ちの方は、予防接種など過去の情報を入れていくのはとても大変なので、妊娠中から新たに入れられるようにしているところ。紙ベースが基本で、あくまで補助的なもの。

- 他の自治体も同じようなことをやっているのか。

→はい。母子モというアプリであるが、導入している自治体は全国で 490 市町村。茨城県内では、14 自治体。妊娠期からの登録から始まり、間に合わなかった方は生まれた時から登録がはじまる。
- 桜川市から転出した時に、そういったデータをまた使うことはできるか。

→住所を変えると自動連携する。転入でも同様のことが可能。
- 「さくらっこ」は小学校までの子をフォローするというかたちなので、年齢の低いお子さんがいる、保育園や幼稚園で説明会を行うといった積極的な活動はされているか。

→年度初めに、保育所にチラシを配布しているが、3, 4 歳ぐらいになると過去のデータを入れることが大変といった状況があるので、使い勝手が悪いといった印象はある。ただ、これからデジタル田園都市国家構想で、検診時の問診票や、予防接種の予診票がスマートフォンでできるようになれば、使い勝手は良くなるのではないかと考えている。情報発信だけでなく、アプリとしての機能も備わっていかなければ、新たな登録者は増えてはこないと思う。
- 情報の更新はどれくらいの頻度で行われているか。

→今年度に入ってから、1 週間に 1 度は情報更新を行っている。1 日の平均で 20 人の方がアクセスしているというところで、まだまだアクセス数は少ない状況。
- 情報弱者や経済弱者についてはどのような対応をとっているか。

→子育てに障害がある方の場合には、直接電話をしたり、多方面からのフォローをしているところ。人数が少ないので、手厚く個別のケースについてはできていると思う。
- どの自治体でも紙の母子手帳の補助として、電子アプリを導入しているということなので、同じような課題を抱えていると思う。今年行う満足度調査や、先ほど説明があった乳幼児健診のデジタル化などができるようになればとても便利なものになると思うので、そこはしっかり取り組んでいただきたい。

- 自分のスマートフォンが壊れてしまった場合、データのバックアップは可能か。
→バックアップは可能。
- アプリの利用状況についてことばの教室を2回開催したとあるが、これは何か。
→言語聴覚に障害のあるお子さんとその親が対面で行うもの。コロナ禍でアプリのオンライン機能を使って2回開催した。今後、zoomを利用するなどそのあたりについては検討中。
- アプリについて、県レベルで導入し市町村がそれを活用できれば、費用面での負担は減り、市町村格差はなくなるのではないかと思った。
→神奈川県では県がアプリを導入し、それを市町村が活用することで、県と市町村がつながりながら運用をおこなっている。
- 市町村からすると県で音頭をとってもらった方がよいか。それとも個別の方が動きやすいのか。
→県で音頭をとってもらった方が運用しやすいとは思いますが、子育て施策の独自性を出すという観点では、市が独自で組み立てていく方が動きやすいということもある。

【地域の魅力を丸ごと売り込む商社づくり】

- KPIで地域商社の雇用者数が20人となっているが、これはパートの方を20名雇うという目標か。
→最終目標としては社員を20名。
- 地域商社の出資はどこから？
→80%が市で、20%が商工会。
- 地域商社の上期の売り上げ概算はどのぐらいか。
→上期についてまとめてはいないが、前年の上期の約80%。

- 上期の売り上げが下がっている要因はなにか。

→コロナの影響は否めないと思う。形態としては道の駅に似たようなものになるので、土日のイベント等でかなりの集客を見込まなければならないが、コロナの影響でイベントを開催できないことが要因であると分析している。

- のぼり旗にアイキャッチをつけてはどうか。

- 桜川市はヤマザクラの里であるが、さくら関連の商品が少ない。

- 国道 50 号からの導線が分からない。何か対策はあるか。

→看板の発注が完了済みのため、国道上り、下りの両方に設置される予定。

- ネット販売の今後についてお聞きしたい。

→地域商社の設立の目的の中に、桜川市のふるさと納税と連携を図りたいというところがある。様々な地域の特産品を組み合わせることで、新たな返礼品を生み出す可能性があるが、現在、ふるさと納税の返礼品として地域商社の商品があまりない状態なので、そちらと合わせて分かりやすいシステムを導入していきたいと思っている。

- あなたのそばプリンについて

→なぜ桜川市で蕎麦なのかといったところを伝えきれていないところがある。ブランディング先行で進めてしまったところがあるので、これからブラッシュアップしていきたい。

- KPI の指標が、地域商社が開発した商品数が 2020 年度から 2024 年度までで 15 件となっていて、2021 年度の実績値が 50 件とあることから、目標値を超過しているということによろしいか。

→当時、KPI の 1 件がどういった数え方を意図しているかは分からないが、50 件というのはメニューになるので、ハンバーガー1 つにしても、ハンバーガー、チーズバーガーで 2 件と数えているので、カウントの考え方を整理した方がよいとは思っている。

【山桜を守り育て広める事業】

- KPI の中に山桜の後継樹育成本数とあるが、これはどのあたりを対象としているのか。
→磯部地区の圃場で育成しつつ、桜の里づくり支援事業の苗木として市内に循環させていくかたちをとっている。
- 山桜の保全に関わる人材育成（桜守）は、現在 10 名とのことだが、どんな方になっているのか。
→市内の桜の里づくり支援事業に関わっている方々や、桜に関心のある団体の方々、地域おこし協力隊のOBなど。
- 桜守にどんなことを期待されているか。
→将来的には、市内の方にヤマザクラの魅力を伝えることで愛着を持ってもらうことを期待。
- 先ほどふるさと納税の話があったが、例えば、返礼品で植樹などを入れると喜ばれるかもしれない。
- 「桜川市ヤマザクラ保全活用計画」に基づいて事業を行うということであるが、計画の中ではどんな目標を掲げているのか。
→10年の基本方針として、名勝・天然記念物のサクラの保存、里山の保存、人材育成の3つの柱を掲げている。

【地域公共交通推進事業】

- 巡回ワゴンについては 10 路線あるということか。便数は。
→10 路線あるということ。毎日運行しているわけではなく、各々週に 2 回で 1 乗車 100 円。
- デマンドタクシーについてはどのような仕組みか。
→事前に予約していただいて、市内であればどこでも 300 円。
- デマンドタクシーについては利用者が多いのではないか。
→近年は年間利用が 1 万回をきっている。デマンドタクシーについては、乗り合わせでコストカット

することを目的としているが、コロナの影響で思うシステムの使い方をしておらず、同じ人に複数回利用いただいている状況。

- 利用者については高齢者が多いのか。

→はい。デマンドタクシーについては、基本的に 65 歳以上の方と障害をもっている方が乗車。

- 利用に偏りがあるのはなぜか。

→デマンドタクシーがあることを知らないということはないと思う。予約をしなくてはならないことや、乗り合いを忌避すること、市外の病院に行けないことなどが要因ではないかと思う。

- ヤマザクラ GO ミニの実証実験について、一度乗って見ないと分からないところがあるので、イベントを開催するなど、他部署と連携した仕組みがあると良かったのではないかと思った。

→民生委員の方や区の方と協力してやっていたが、コロナが流行ってきてしまって、そういったことができなくなってしまった。

- デマンドタクシーの利用について、高齢者や障害をもっている方を限定にしているということだが、子育て世帯がデマンドタクシーを使えるようにしていかないと人口減少、少子化の問題を解決していけないのではないかと思う。

- 高萩市では、AI を利用して仮想バス停を設けるなどの取り組みを行っている。地理的な状況は違うと思うが、桜川市ではそういったことは検討されているか。

→高萩市では桜川市でいう岩瀬市街地よりも狭い範囲で今回の取り組みをやられている。桜川市の場合、間に山があるので、横移動することができないといったデメリットがあることから、すぐには導入の検討は難しいが、子育て世代の方が利用しやすいようにするなど様々なところに配慮したシステムについては提案していこうとしているところ。

- 桜が咲く時期に臨時バスを出してみてもいいか。